

平成25年度 農作物病虫害
防除対策情報 第2号

平成25年6月17日 秋田県病虫害防除所

イネミギワバエ（イネヒメハモグリバエ）の
産卵量はほ場間差が大きい
～6月移植では発生状況を確認して直ちに防除してください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 5月下旬の巡回調査における株当たり卵数が沿岸部を中心に全県的に多かったことから（図-1）、5月24日に注意報第1号を発表したが、この1回目の発生による被害は沿岸部を中心に全県的に多かった（図-2）。
- 2) 2回目の発生は6月10日からの高温により産卵時期が大幅に早まると予想されたことから、6月3半旬に直播栽培と移植栽培（5月移植と6月移植）において産卵調査を行った。
その結果、①直播栽培ではほとんどの地点で茎当たり0.1個以下であった（図-3）。②5月移植では一部のほ場で産卵が確認されたが、株当たり1.0個以下であった（図-4）。③6月移植でも多くのほ場で卵密度は低かったが、一部のほ場では株当たり1.5個を超える産卵が確認された（図-5）。
- 3) 以上のことから、ほとんどのほ場では2回目の産卵量が少ないため防除の必要はないと予想されるが、6月移植では一部のほ場で産卵数が多いため注意が必要である。

2. 防除対策

有効積算温度による予測では、すでに2回目の幼虫がふ化し始めている。6月移植では発生量のほ場間差が大きいため、発生状況を注意深く確認し、被害がみられたら直ちに以下の防除対策を行う。

- 1) トレボン粒剤を10a当たり2～3kg水面施用するか、スミチオン乳剤2,500倍又はエルサン乳剤2,000倍のいずれかを10a当たり100リットル散布する。

【 問い合わせ先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-860-3421
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3327
掲載HP	http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/

参考資料

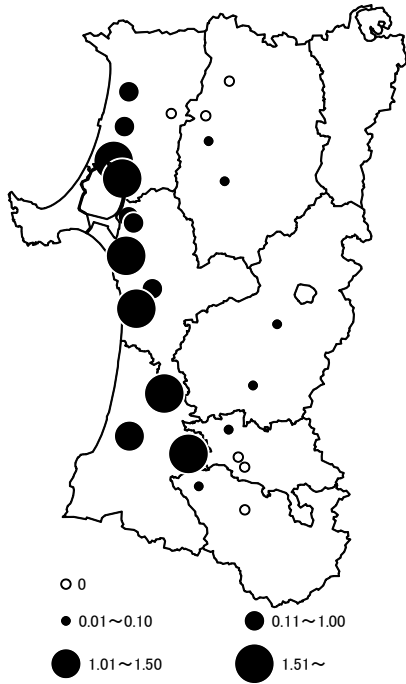


図-1 巡回調査における株当たり卵数
(5月下旬調査)

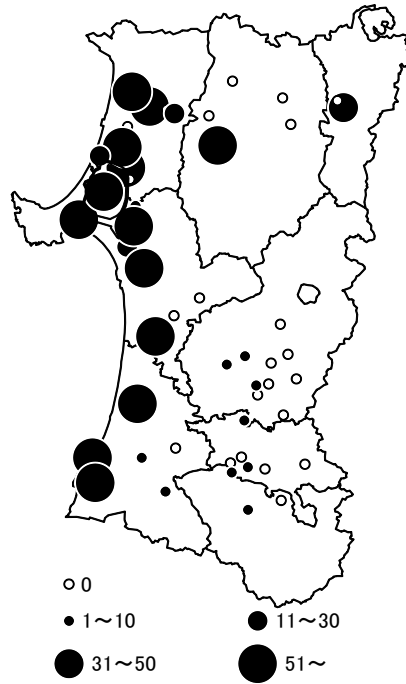


図-2 巡回調査における食害株率
(6月11~12日調査)

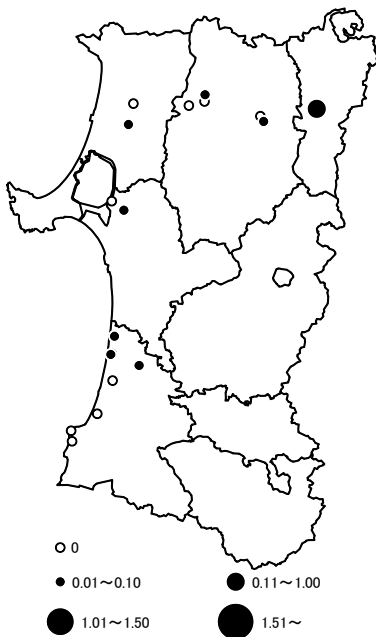


図-3 直播栽培における茎当たり卵数
(6月13~14日調査)

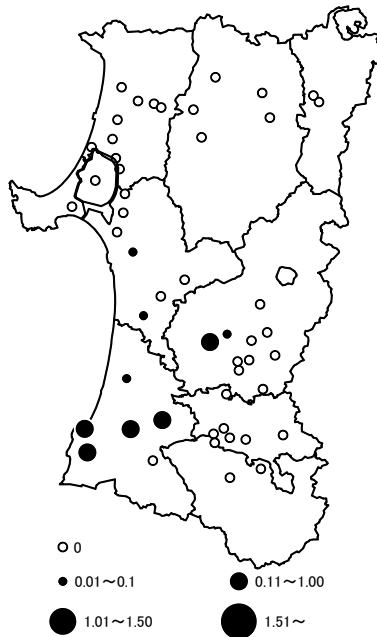


図-4 5月移植における株当たり卵数
(6月11~12日調査)

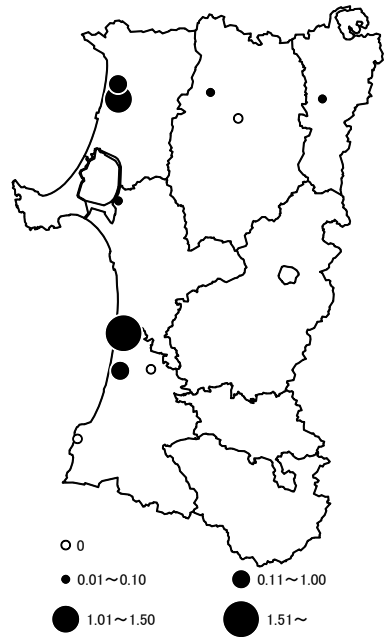


図-5 6月移植における株当たり卵数
(6月13~14日調査)